

2015年4月30日

2015年度の鉄道事業設備投資計画

# 設備投資計画は総額 328億円

新たな輸送サービスの提供を積極的に推進します

東武鉄道株式会社

東武鉄道（本社：東京都墨田区）では、2015年度に鉄道事業において総額328億円の設備投資を行い、新たな輸送サービスの提供、安全対策、お客さまサービスの向上、環境対策を推進し、お客さまに安心して、より便利に、そしてより快適にご利用いただけるように努めます。

## 1. 新たな輸送サービスの提供

### （新型特急車両「500系」の新造）

東武本線を運行する特急列車のさらなる利便性の向上を目的に、2017年春に導入予定の新型特急車両「500系」8編成の製造に着手します。

開発コンセプトは「さまざまな運行形態で運用可能な速達性と快適性を持った特急列車」であり、1編成3両固定の併結・分割を可能とした仕様とします。これにより、途中駅で列車の併結・分割などを行い、お客さまの目的地に合わせたシームレスなご利用を可能とするなど、新たな需要の創出を図ります。



△新型特急車両「500系」エクステリア（外観）イメージ



△新型特急車両「500系」インテリア（内観）イメージ

### （東武アーバンパークライン 大宮～春日部間急行運転対応工事）

東武アーバンパークラインでは、環状路線としての特徴を活かし、ご利用のお客さまのさらなる利便性の向上を図るため、2016年春に、大宮～春日部間において急行運転を計画しています。

2015年度は、急行運転の実施に伴う列車の速度向上を見据え、踏切制御回路の改修および曲線改良等の急行運転に向けた対応工事を推進します。

## (上りT Jライナーの運行および東上線地下直通列車の急行運転)

東上線では、ご利用のお客さまのさらなる利便性の向上を図るため、2016年春に、朝ラッシュ時間帯における上りT Jライナーの運行および地下鉄直通列車の東上線内における急行運転を計画しています。

2015年度は、本計画の実施に向け、車両および駅務機器の改修工事等を推進します。

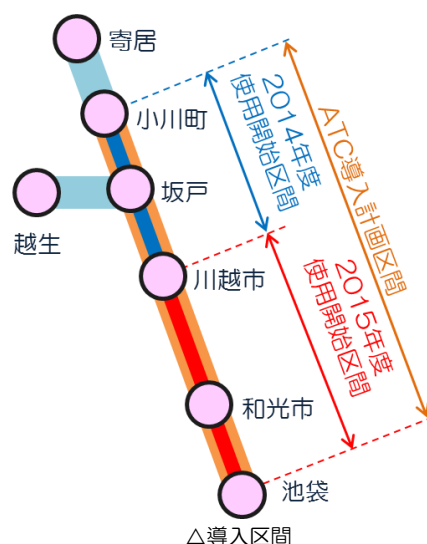
## 2. 安全対策

### (東上線新運転保安システム(A T C)の完成)

東上線では、現行のA T S (自動列車停止装置) に代え、より高性能なA T C (自動列車制御装置：前方に走行中の列車の位置から列車速度を制御する装置) の導入を進めています。

2015年度は、昨年度使用開始した川越市～小川町間に続き、池袋～川越市間での使用開始を目指し、工事を推進します。

東武型A T Cは、車上・地上間情報伝送装置から得た線路情報(列車間距離・勾配等)によりスムーズな速度制御を実現させるほか、踏切支障時の防護機能や停車駅の定位置停止・誤通過防止などの拡張性を持たせています。



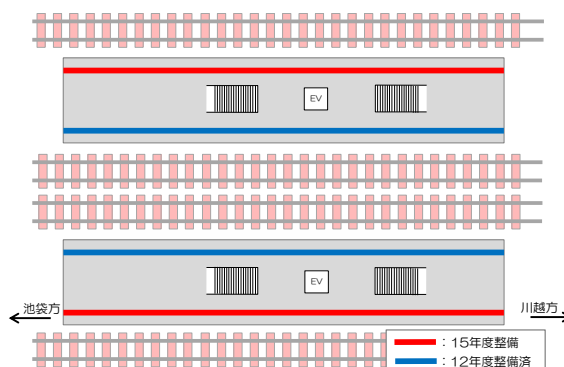
### (駅の安全対策)

駅ホームの転落防止対策については、2011年8月に国土交通省から示された「ホームドアの整備促進等に関する検討会(中間とりまとめ)」の整備方針に基づき、国、関係自治体のご協力のもと、鋭意整備を進めています。

2015年度は、1日の利用者数10万人以上の駅である東上線 和光市駅(2015年度完成予定)および川越駅(2017年度完成予定)への可動式ホーム柵設置を推進するとともに、1日の利用者数1万人以上の23駅(東武スカイツリーライン7駅、伊勢崎線3駅、日光線1駅、東武アーバンパークライン6駅および東上線6駅)について内方線付点状ブロックの整備を推進します。



△和光市駅における可動式ホーム柵設置イメージ



上記以外にも、より安全に駅をご利用いただけるよう、ホーム改修工事(電車床面とホームとの離れ・段差の改修)および非常停止ボタンの新增設等を推進します。

## (高架化工事の推進)

### ・竹ノ塚駅付近高架化工事

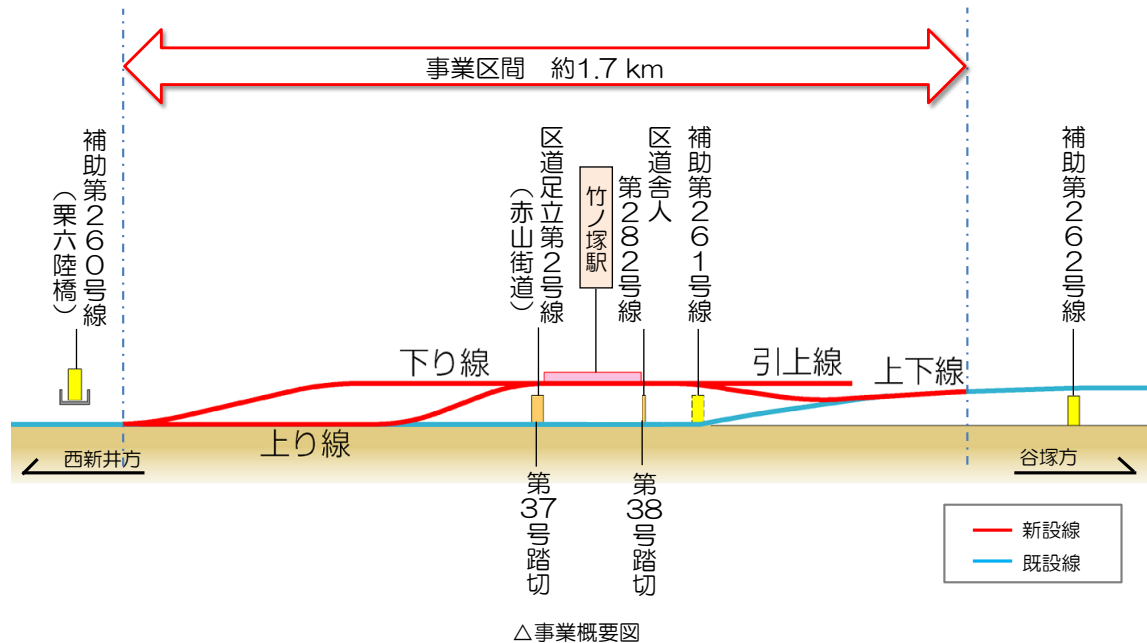
東武スカイツリーライン 竹ノ塚駅付近（西新井～谷塚間）では、足立区が施行する都市計画事業として連続立体交差化工事を施行中です。

2015年度は、下り急行線の高架橋本体工事および軌道・電気関係工事を実施し、2020年度の事業完成を目指して工事を推進します。

なお、この工事が完成すると、竹ノ塚駅が高架駅となり、2箇所の踏切が廃止されます。



△竹ノ塚駅付近下り急行線の高架橋（工事中）



### ・清水公園～梅郷間高架化工事

東武アーバンパークライン 清水公園～梅郷間では、千葉県が施行する都市計画事業として連続立体交差化工事を施行中です。

2015年度は、清水公園～愛宕間および野田市～梅郷間で高架橋本体工事を実施し、2017年度の事業完成を目指して工事を推進します。

なお、この工事が完成すると、愛宕駅と野田市駅の2駅が高架駅となり、11箇所の踏切が廃止されます。



△清水公園～愛宕間高架橋（工事中）

### ・とうきょうスカイツリー駅付近高架化計画

東武スカイツリーライン 曳舟～とうきょうスカイツリー間では、連続立体交差化事業計画について、東京都、墨田区が2015年3月から都市計画決定手続きに着手しました。当社も事業化に向け積極的に協力してまいります。

なお、この事業により、とうきょうスカイツリー駅付近の踏切が廃止され、周辺道路や駅前広場が整備されます。



### (防災対策、線路・電気等施設の更新改良)

橋梁・高架橋・土構造物等に対する防災対策、線路の重軌条化・弾性ポイント化・ロングレール化等の軌道強化、駅舎・跨線橋・ホーム上家等の改修・改築・耐震補強および電気設備の更新改良等を計画的に推進します。なお、高架橋の耐震補強工事に合わせて、鉄道高架下の有効活用（店舗等）を検討します。

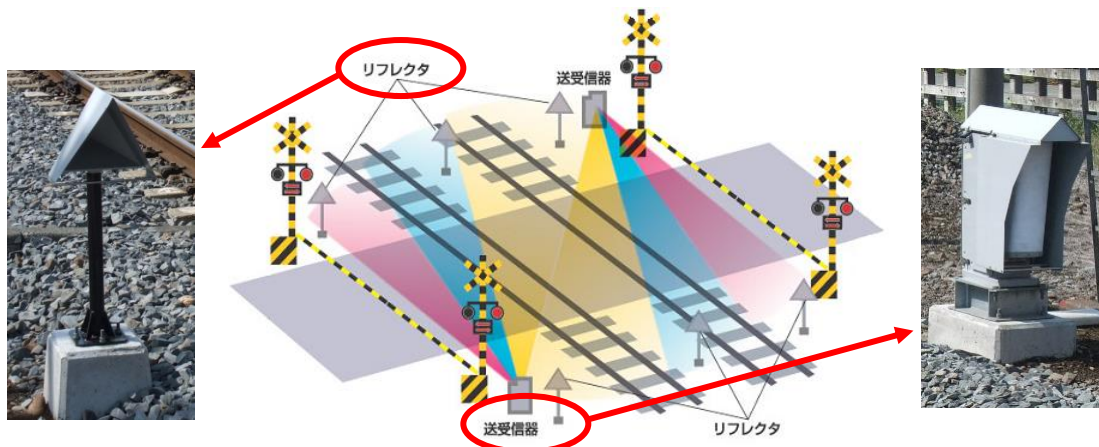
また、踏切においては、さらなる安全性の向上を目指し、検知範囲の広い新型（レーダー式）踏切支障報知装置への更新を進めるとともに、踏切が支障した場合に「非常ボタン」を操作すると、ATS（自動列車停止装置）と連動し、列車を自動的に停止させる工事を引き続き推進します。



△橋脚基礎の耐震補強工事（施工中）  
（東武スカイツリーライン 北千住～小菅間 荒川橋梁）



△高架橋柱の耐震補強工事  
（東武スカイツリーライン 竹ノ塚～谷塚間）



△新型（レーダー式）踏切支障報知装置

※送受信機は、障害物を検知するレーダーを発信します。

※リフレクタは、レーダーを送受信機へ反射します。

### (総合教育訓練センターの訓練線新設)

当社では、より質の高い教育・訓練を実施することを目的として、南栗橋車両基地内に総合教育訓練センターを新設（2016年度完成予定）します。

2015年度は、当センター建物の新設に合わせ、駅係員および乗務員のさらなる技能向上のため、総合訓練線の新設工事に着手します。

※総合教育訓練センター建物の建設費は、鉄道事業の設備投資対象外です。

### 3. お客さまサービスの向上

#### (橋上駅舎化等)

工事中の伊勢崎線 川俣駅、東武アーバンパークライン 岩槻駅、東上線 男衾駅に加え、2015年度より、日光線 幸手駅および東上線 新河岸駅について、関係自治体のご支援により、橋上駅舎化等の工事に着手します。

また、本工事に合わせて、関係自治体にて駅前広場の整備が実施されることになっており、完成後は駅施設のバリアフリー化とともに駅アクセスの向上が図られます。



△川俣駅イメージ（2015年度完成予定）



△岩槻駅イメージ（2016年度完成予定）



△男衾駅イメージ（2016年度完成予定）



△幸手駅イメージ（協定締結へ向け協議中）

#### (駅施設のリニューアル)

お客さまに、より便利に、より快適に駅をご利用いただくために、駅施設のリニューアル工事を推進します。

2015年度は、東武アーバンパークライン 大宮公園駅、新船橋駅、船橋駅、日光線 下今市駅および東上線 成増駅にて、駅舎のリニューアル工事を推進するとともに、東武スカイツリーライン 谷塚駅および東上線 柳瀬川駅に冷暖房付のホーム待合室を新設します。

##### ・大宮公園駅

大宮公園駅周辺は、大宮公園や氷川神社、盆栽村など、広域からの来訪が見込まれる賑わい施設があるほか、閑静な住宅エリアになっています。

そのため、地域の玄関口にふさわしいギャラリースペースを併設したデザイン性の高い駅舎に改築し、駅構内においても、駅前広場や駐輪場を整備するとともに高齢者福祉施設を新設するなど、駅周辺の環境整備を推進します。



△大宮公園駅駅舎イメージ



## ・成増駅

東上線 成増駅では、2015年度の完成を目指して橋上部分を拡張し、店舗スペースを増床するとともに南口駅ビルと一体となった改築工事を推進します。

工事完成後は、ご利用のお客さまのさらなるサービス向上を図るとともに、地域の拠点に相応しい駅に生まれ変わります。



△成増駅改札前 コンコースイメージ



△成増駅南口 駅ビルイメージ

## （駅に直結した拠点病院の建設）

東武スカイツリーライン 曳舟駅では、2017年度の開業を目指して、駅に直結した拠点病院の建設を推進します。

救急医療機能のある地域の拠点病院を駅に直結して開設することは、交通弱者にご利用いただきやすだけでなく、駅をご利用になるお客さまや駅周辺をはじめ、沿線にお住まいの方の利便性向上に大きく寄与し、駅を中心とした地域の活性化が期待されます。

※ 病院の建設費は、鉄道事業の設備投資対象外です。



△曳舟駅に直結した拠点病院イメージ

## （駅施設のバリアフリー化）

全てのお客さまにご利用いただきやすい駅施設を目指して、2011年3月に改正された移動等円滑化の促進に関する基本方針の整備目標に沿って、バリアフリー化工事を推進します。

2015年度は、橋上化により整備する川俣駅のほか3駅に、エレベーターおよび多機能トイレ（個室）を整備します。

路線名	駅名	エレベーター	多機能トイレ
伊勢崎線	和戸	2基	1個室
伊勢崎線	南羽生	2基	1個室
日光線	新栃木	2基	1個室

#### (訪日外国人向け無料 Wi-Fi の導入)

訪日外国人観光客の利便性向上を目的として、無料公衆無線LANサービス「TOBU FREE Wi-Fi」を導入します。

訪日外国人に人気の観光地を有する浅草駅、東武日光駅、川越駅など21駅をはじめ、東京スカイツリータウン®のほか、東武ワールドスクウェア、浅草駅ビル「EKIMISE (エキミセ)」など東武グループ施設の計25箇所において(対応言語: 5言語《英語、中国語(繁体字・簡体字)、韓国語、タイ語》)2015年5月1日から順次サービスを開始します。



△「TOBU FREE Wi-Fi」ロゴ

## 4. 環境対策

#### (高効率なモータ (PMSM) の導入)

新たに導入する新型特急車両500系のモータ(主電動機)に永久磁石同期電動機(PMSM)を採用します。特急スペーシア等で使っていた従来型モータは、回転部分に電磁石を使用して動力を発生していましたが、PMSMは回転部分を永久磁石にすることで使用電力量を削減し、省エネルギー化を図ることができます。

当社では2011年度から通勤用車両(30000系)に試験搭載していましたが、今回の新型特急から本格的に導入します。

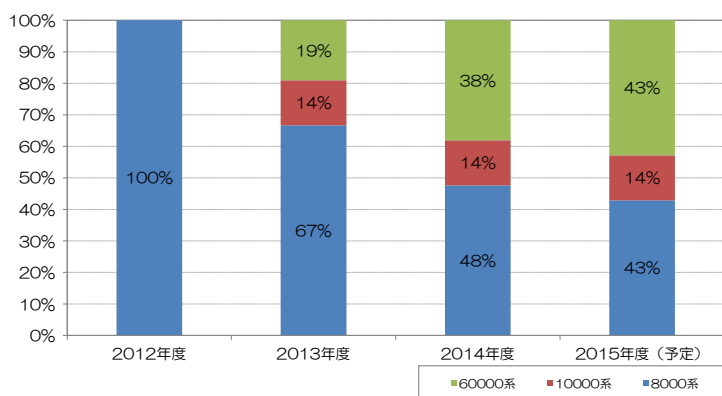


△永久磁石同期電動機(PMSM)

#### (通勤用車両の新造)

東武アーバンパークラインでは、新型車両60000系への代替を推進しています。2015年度は、新たに2編成(12両)を導入し、東武アーバンパークラインを走行する車両の43%(18編成108両)を60000系に置き換えます。

この新型車両60000系は、車体にアルミ合金を使用し、車両の灯装置を全てLED照明としたほか、搭載機器についても軽量化を図るなど、代替する8000系車両に比べて使用電力量を57%削減(2014年度実績)します。また、車いすスペースを中間車に各1か所設置、車内には案内用液晶ディスプレイを採用したほか、当社車両では初となる公衆無線LANを搭載するなど、「人と環境にやさしい車両」となっています。



△新型車両 60000 系

### (通勤用車両のリニューアル)

2015年度は、既存の通勤用車両（10000系）24両のリニューアルを推進します。本リニューアルでは、車いすスペースや車内案内表示器の設置等のバリアフリー化に加え、シートや内貼りを全面的に更新するなど、車内の快適性を向上させるほか、車両冷房機の冷媒を地球温暖化への影響が少ない代替フロンに変更するとともに、車内照明を消費電力の少ないLED照明に変更するなど、環境にも配慮します。



△簡易型案内用液晶ディスプレイ



△リニューアル実施後の車内（10000系）

### (環境にやさしい変圧器の導入)

東武アーバンパークラインでは、電力供給のさらなる安定を図るため、運河変電所の新設工事（2016年3月使用開始予定）を推進しています。

新設する変電所には、環境にやさしい絶縁油（菜種油）を使用した変圧器を導入する計画としており、従来使用していた絶縁油（鉱油）と比較して、絶縁油の製造や廃棄の際に排出されるCO<sub>2</sub>が大幅に低減されます。



△菜種油を使用した変圧器

### (駅照明のLED化)

LED照明は、消費電力が低く省エネルギー効果があることや光源寿命が長いなど環境負荷低減に寄与することから、駅照明のLED化を積極的に進めています。2015年度は、東武スカイツリーライン 越谷駅、新越谷駅、東武アーバンパークライン 船橋駅および東上線 志木駅の駅構内照明をLED化します。

以 上